教授 奴田原 健悟 × 奥村 ひとみ 学生

Kengo Nutahara　Hitomi Okumura

「経済理論とデータ分析を学ぶことで身の回りの様々な現象が分析できます。」

現代経済学科では基礎から体系的に、経済学とその応用を幅広く学びます

奴田原） 奥村さんはどのような理由で経済学を学ぼうと思いましたか？

奥村） どのような仕事を目指すにしても、経済学を学ぶことは欠かせないと考えて経済学部を選びました。専門用語を理解できるか不安でしたが、1年次に経済学を学ぶ上で必要な基礎知識を学ぶことができ、理解を深めることができました。

奴田原） 現代経済学科では、ミクロ・マクロの経済理論と統計学を中心に、基礎から段階を踏んで体系的に身につけるカリキュラムになっていますので、無理なく学修できますよね。実際の専門科目の授業はどうでしたか。

奥村） 企業や金融などはもちろん、環境問題や地域経済まで様々な分野から、自分の学びたい授業を選択できました。授業を通じて、主体的に課題を見つけ分析をする力が身に付きました。

奴田原） 経済学は、企業活動や財政・金融・経済政策などのみを扱う学問のように思われがちです。しかし、経済理論とデータによって、一見経済学と無関係そうな身の回りの現象も分析できます。様々なテーマを扱えるのは、主体的に学修する上で大きな魅力になりますね。

経済と環境問題の関連に興味を持ち、研究テーマを決めました

奴田原） 奥村さんのいまの研究内容を教えてください。

奥村） 私は「事業系食品ロスの課題と対策」を研究しています。経済の発展と環境問題の関連性を学んだことで、興味が湧きました。

奴田原） 奥村さんの研究は「環境経済学」と呼ばれる分野ですね。

奥村） 授業などを通じて、自分で経済の仕組みと環境問題、その解決策について調べる中で、日本では年間621万トンもの食品ロスが発生している事実を知りました。今は小売業や外食産業の「事業系食品ロス」に着目し、企業経営と両立するための具体的な方法について考えています。

奴田原） 経済活動によって環境の質が低下する、というのは公害などでよく知られているため、経済活動と環境改善はトレードオフの関係にあるように思えます。しかし、必ずしもそれだけでなく、技術進歩や経営手法の革新などによって環境と経済活動の両方を改善する可能性を探ることは非常に重要なトピックです。身近な食品ロスの問題について分析するのも興味深いです。

将来は学びを活かして、地域政策の取り組みに積極的に参加したいです

奥村） 環境に関する問題以外に、地域の産業政策にも興味があります。過疎化や高齢化が課題となることが多い中、この1年で個人や企業の地方移住が話題になりました。今後は移住者へのプロモーションに注力している自治体について学びながら、将来は一市民として身近な諸課題の解決に向けた地域政策の取り組みに積極的に参加したいです。

奴田原） 地域の産業政策も経済学の重要な分析対象ですね。近年、「根拠に基づいた政策形成」（Evidence Based Policy Making）が重視されています。現代経済学科で学ぶデータ分析手法で政策効果を数量的に明らかにしつつ、各地域の具体的な取り組みを考察することもそのよい手段になるかもしれません。

「企業や金融はもちろん、環境や地域まで興味にあわせた幅広い内容が学べます。」

奴田原 健悟 教授
Kengo Nutahara

3年
奥村 ひとみ さん
Hitomi Okumura